



ドイツからの
環境・エネルギー
先端レポート

●松田 雅央(まつだまさひろ)
1966年盛岡生まれ。カールスルーエ市在住ジャーナリスト。1992年東京都立大学工学研究科大学院修了、1995年渡独。趣味はサイクリング。自然豊かな農村地帯を走る爽快さが好き。
<http://www.umwelt.jp/>

脱原発とドイツのジレンマ

孤立する、ドイツの原子力政策

自国で開催された昨年のサミットと違い、北海道洞爺湖サミットに対するドイツの関心は必ずしも高くありませんでした。主要テーマとなった環境問題も同様です。ドイツ環境省の情報誌『ウムヴェルト』最新号を開くと、同時期に開催されたEU(欧州連合)理事会環境会議の記事がトップに載り、サミットの記事は3番目の扱いでした。具体的な成果が見えにくいサミットより、身近な問題を取り上げるEUの会議の方が人々の関心を引くようです。

そうは言っても、やはりサミット期間中はメルケル首相の動きを中心にメディアが詳細を報じていました。そんなニュースを見ながら『おやっ?』と思ったのは、ドイツのエネルギー政策と原発に関する関係者の発言です。

ドイツは1970年代から高まった反原発の流れを受けて2002年に原子力法を改正し、脱原発へと踏み出しました。運用年数の過ぎた原発から順次停止し、2020年頃にすべてを閉鎖するプロセスが現在進行中です。

チェルノブイリ原発事故(1986年)という衝撃もあり、ドイツは世界的な脱原発の広がりを見込んでいましたが、それとは裏腹に温暖化ガス排出抑制のため原発の復権が進んでいます。気がつけばG8の中で脱原発を掲げるのはドイツだけ。正直なところ、ドイツは孤立感と不安感を抱えています。

エネルギー政策の先行きは不透明

究極的には他の国がどう考えようと構わないはずですが、経済も環境もグローバル化が進んでいますから、世界の流れに反して我が道を往くのはなかなか大変です。

産業界に根強かった反脱原発の動きを押し切った手前、政府にとって、追従する国がないのは不都合でしょう。また、消費電力の22%(2007年)を担う原発がすべて無くなった場合、現状では不足電力をカバーしきれません。ドイツは代替エネルギー源として多数の海上風力発電所建設を計画していますが、それだけで本当に原発の代わりになるのか、また経済的に

成り立つのか、先行きは不透明です。ヨーロッパは陸続きなので隣国の電力を買う方法もありますが、仮に、電力の4分の3が原子力というフランスから買うことになれば、どうしようもない矛盾に陥ってしまいます。

もう後戻りはできない

とはいえ、方針を180度転換し原発復活が可能かといえ、それも有り得ない話です。まず脱原発を決定した社会民主党と緑の党(当時の連立与党)の強烈的な反対は必至で、世論の納得も得られません。もうひとつ、技術者不足のため復活させたくともできない事情があります。滅び行く産業を将来の職業に選択する学生はほとんどいませんから、原子力技術者が育たないのは当然です。切実な問題として、この先必要となる原子炉解体の技術者にさえ事欠きそうです。

いずれにしろ、もう後戻りはできません。現実的な選択肢は今ある原発の運用を延長し、その間に再生可能エネルギーを柱とする次世代のエネルギー政策を確立することです。普段、ドイツは環境保全に強気ですが、洞爺湖サミットを通してちょっと弱気な一面を垣間見ました。



ドイツ北部にあるエムスラント原子力発電所

編集後記

皆様、こんにちは。西日本では、40℃近くまで温度が達するなど、毎日暑い日が続いておりますね。クーラーをつけすぎて夏バテしたり、夏風邪を引いたりしておられませんでしょうか?

さて、8月8日から8月24日にかけて、第29回オリンピック競技大会が中国の北京で開催されます。およそ200の国と地域から、約10,500人もの選手と役員が参加するといわれています。この約3週間は、世界中の人々が北京での選手達の活躍を注目している事でしょう。幸い北京と日本との時差も1時間ですので、皆様も生中継でご覧になれることがあるのではないのでしょうか? その際は、メダルを獲得する選手達の活躍もさ

ることながら、北京の環境についても注目していただきたいと思います。中国は、オリンピックを北京に招致するにあたり、環境保護の理念を大々的に提唱し、招致に成功した2001年7月13日から「グリーンオリンピック(環境にやさしいオリンピック)」の取り組みを進めてきました。この取り組みの集大成が、ぎっしり今回のオリンピックには詰まっていると思われる。地球温暖化を止めるには、急成長を遂げている中国のような新興国の協力が不可欠です。今回のオリンピックを通して、中国がどのように環境問題に取り組んでいるか、皆様も是非確認してみてください。(さわだ)

表紙写真 写真家阿久沢利夫氏が撮影した森の写真をお届けします

軽井沢町は明治21年、アレキサンダー・クロフト・ジョーハウスが最初の別荘を建ててから発展し、多くの観光客が訪れています。そこで毎年開催される「ジュー・デ・軽井沢」。新緑の中を走るこのクラシックカーラリーの道すがら旧軽と言われる別荘地で撮影したものです。



ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
Deutsche Asset Management
A Member of the Deutsche Bank Group



投資信託営業部
☎ 0120-442-785
(受付時間:営業日の午前9時から午後5時)
<http://www.damj.co.jp>